

令和8年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	8,183	12,151	6,168	5,983	13	21
2 千 石	4,849	7,581	3,815	3,766	△ 2	16
3 内 山	5,955	8,088	4,246	3,842	4	8
4 大 和	3,805	7,069	3,542	3,527	△ 9	△ 9
5 上 野	7,944	15,739	7,697	8,042	2	5
6 高 見	8,473	14,381	6,796	7,585	△ 15	△ 18
7 春 岡	8,596	12,591	6,654	5,937	1	6
8 田 代	12,364	22,762	10,850	11,912	△ 15	△ 8
9 東 山	11,071	19,511	9,427	10,084	9	20
10 見 付	4,838	8,821	4,431	4,390	40	38
11 星 ケ 丘	3,835	7,066	3,168	3,898	△ 2	2
12 自 由 ケ 丘	3,624	6,978	3,188	3,790	5	6
13 富 士 見 台	6,762	14,968	6,890	8,078	△ 3	△ 26
14 宮 根	4,006	8,092	3,708	4,384	3	△ 3
15 千 代 田 橋	3,852	8,142	3,797	4,345	10	7
千 種 区	98,749	173,966	84,519	89,447	41	65
R7.10.1	97,191	172,841	83,985	88,856		
対 前 年 比	1,558	1,125	534	591	41	65
名古屋市長	1,206,270	2,354,205	1,156,855	1,197,350	1,323	644
愛知県 (R8.9.1)	3,449,614	7,443,459	3,707,957	3,735,502	707	△ 1,697

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	71	125	△ 54	934	815	119

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
平成 2 年	156,478	平成 2 2 年	160,015	最大人口	173,966 (令和8年10月1日)
平成 7 年	148,847	平成 2 7 年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成 1 2 年	148,537	令和 2 年	165,245		
平成 1 7 年	153,118	令和 7 年	172,841		

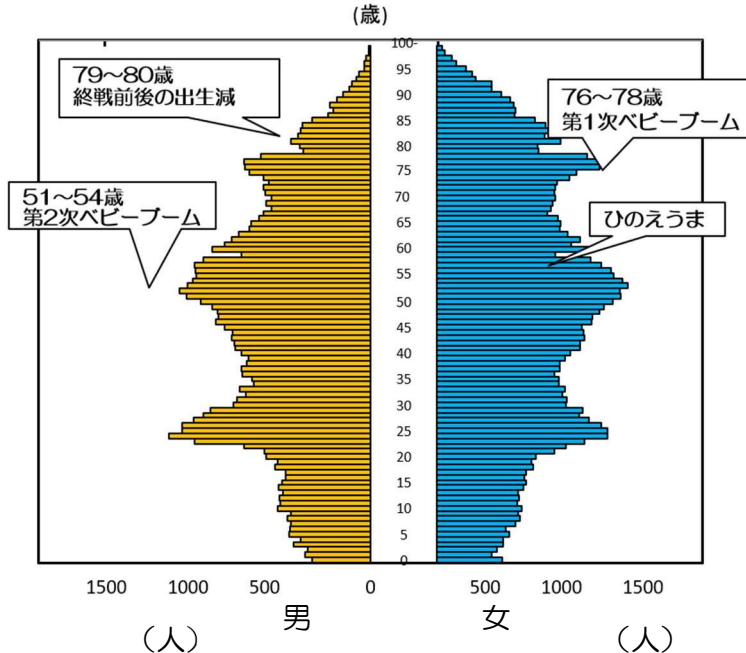
注1) 学区別の世帯数と人口は令和7年国勢調査結果の速報値を基礎とし、区および市の世帯数と人口は令和7年国勢調査結果の確定値を基礎とし、それぞれ毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。したがって、学区別の数値の合計と区の数値は一致しません。

注2) 県の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とし、住民基本台帳による異動数を加減して推計したものです。

注3) 世帯数は、令和7年11月1日から算出方法の一部を変更しています。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

今回は、千種区の人口を年齢別に見ながら、その変化の様子を紹介します。

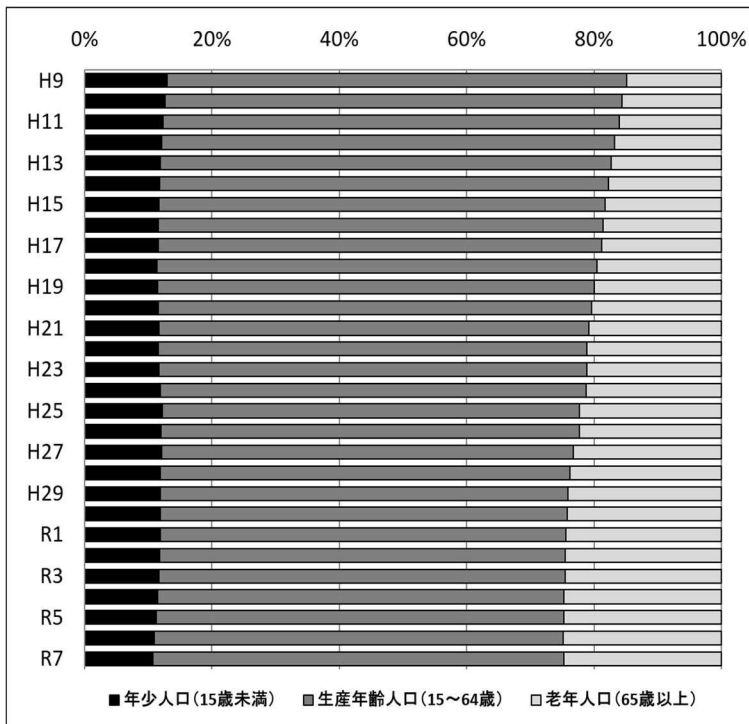


人口構成を見ると、79～80 歳付近では第二次世界大戦の影響、59 歳付近では「ひのえうま」の影響により人口が少なくなっています。また、76～78 歳付近には第 1 次ベビーブーム世代、51～54 歳付近には第 2 次ベビーブーム世代が見られ、人口が多くなっています。これらの特徴は全国的な傾向と共通しており、人口ピラミッドは「ひょうたん型」の形をしています。

一方で、全国的な傾向とは別に、千種区では 20～25 歳の人口が多いことも特徴です。これは、区内に複数の大学があり、学生世代が多く居住していることが一因と考えられます。

図 1:千種区の年齢各歳別人口構成（令和 7 年 10 月 1 日現在）

※令和 2 年国勢調査結果確定値を基礎とした推計値をもとに作成。



次に、平成 9 年から令和 7 年の年齢 3 区分人口の割合の推移を見てみます。平成 9 年と令和 7 年を比較してみると、年少人口（15 歳未満）の割合は 2.7 ポイント、生産年齢人口（15～64 歳）の割合は 6.9 ポイント低下したのに対し、老年人口（65 歳以上）の割合は 9.6 ポイント上昇しており、高齢化が進んでいることが分かります。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成 12 年まで減少傾向でしたが、以降はほぼ横ばいとなっています。一方、生産年齢人口の割合は平成 7 年をピークに減少を続け、老年人口の割合は増加を続けています。

図 2: 千種区の年齢 3 区分人口の割合の推移（各年 10 月 1 日現在）

※令和 7 年は、令和 7 年国勢調査の確定値をもとに作成。